

令和7年度事業報告書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

特定非営利活動法人アットマークリアスNPOサポートセンター

I 事業

【助成及び委託事業】

1. 釜石市におけるデジタルを活用した防災のための仕組み作りとコミュニティサポート事業

助成元：日本郵便年賀寄付金

実施期間：令和7年5月～令和8年3月

(1) 事業概要

東日本大震災の被災地釜石において、復興の先に必要な「官民一体による地域づくり」実現に向けた地域課題解決、公共サービス、防災・減災・福祉のあり方を具体化するためデジタル（DX）を活用した官民連携の仕組み作りを行う。

(2) 事業内容

- ① 福祉と防災のデジタル化調査(アンケート)1回
- ② デジタルサービスの実用化検討会・試作品の作成／検証／評価（テーマ各1回）
- ③ 福祉分野のデジタル化勉強会（2回）
- ④ シンポジウム開催

(3) 実施内容

① 福祉と防災のデジタル化に関する実態調査アンケート

実施時期：2025年8月20日～10月30日

対象者：釜石市東部地域復興公営住宅住民を中心とした釜石市民400人

回答：75人

対象者：福祉機関及び事業者30団体

回答：12団体

② デジタルサービスの実用化検討会

開催日	内容	参加人数
2025年5月21日	プロジェクト概要と目的説明	6人
2025年7月16日	デジタル活用のアイデア抽出	7人
2025年9月30日	抽出されたアイデアの実用化に向けたコンテンツの洗い出し	10人
2025年11月11日	洗い出しされたコンテンツの活用例を作成	6人
2026年2月12日	活用例のまとめ	6人

③ 福祉と防災のデジタル化勉強会

開催日	内容	参加人数
2025年10月15日	福祉分野におけるDXと地域課題解決	11人
2025年12月9日	福祉の現場から学ぶ	12人

④ 福祉と防災のDXを、暮らしの視点から考えるシンポジウム

- 開催日時：2026年3月3日（火）13:30～15:30
- 会場：みんなの家

➤ 参加者：40名

➤ 内 容：

本シンポジウムでは、当法人が3年間取り組んできた福祉と防災のDXについて、事業の背景やこれまでの取組を整理し、共有した。

また、アンケートや実践を通して見えてきた、情報が届きにくい、デジタル活用に不安がある、参加につながりにくいといった課題を振り返り、現場で直面した課題やうまくいかなかった点についても共有した。

さらに、福祉・防災・地域をめぐる課題に対して現在進めているトライアルを紹介し、福祉・防災・デジタルをつなぐことで見えてきた連携の可能性について考える機会となった。

2. 被災者支援コーディネート事業

委託元：特定非営利活動法人いわて連携復興センター

実施期間：令和7年4月～令和8年3月

(1) 事業概要

東日本大震災に伴う避難生活の長期化や災害公営住宅等への移転など、被災者を取り巻く生活環境が変化する中で、被災者が安定的な日常生活を営むことができるように、被災者の円滑な生活再建の支援、心のケア、生きがいづくりによる「心の復興」やコミュニティ形成の促進等、各地域の復興の進展に伴う課題に対応した支援活動を総合的に支援することを目指す。

(2) 事業内容

- ① 被災地域の現状・課題、個別の支援ニーズ等の把握及び整理
- ② 被災地域の課題や個別の支援ニーズに対して、多様な活動主体による支援策の実施のためのコーディネートの実施（ニーズとリソースのマッチング）
- ③ 1つの市町村内や市町村の区域を越えた、行政とNPO及び企業等の多様な活動主体間の連携、協働体制の構築
- ④ 各地域の課題や取組の分析及び被災地域全体への波及

(3) 実施内容

- ① 釜石地域のNPO等を訪問し、活動の中から被災地域の現状・課題を把握し、課題シートに整理し、いわて連携復興センターに報告した。
- ② 被災地の課題や個別の支援ニーズに対し、いわて連携復興センターの地域コーディネーターと連携し支援策を実施した。
- ③ 陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、宮古市の各地域の調整員といわて連携復興センターの地域コーディネーターによる活動報告及び課題やニーズの共有を行った。
(月1回計12回)
- ④ 陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、宮古市の各地域の調整員といわて連携復興センターの事業に関わるメンバーを対象とした学びあう会に参加した。
(計2回)

3. 高齢者および子どもたちの居場所づくりとデジタル技術を活用した孤立予防事業

助成元：社会福祉法人中央共同募金会

実施期間：令和6年12月～令和7年12月

(1) 事業概要

「孤独・孤立予防のための居場所づくり」を柱とする以下の活動を展開し、地域住民のつながりを強化し、安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。

(2) 事業内容

- ① 孤独・孤立予防のための居場所づくり
- ② 高齢者向けデジタルリテラシー向上講座
- ③ 高齢者見守り支援活動のデジタル化
- ④ 若年層向けプログラミング教室と個別学習支援

⑤ 地域全体の DX 推進に向けた勉強会

(3) 実施内容

① 孤独・孤立予防のための居場所づくりとして月10日間開館

② 学習支援

開催月	実施回数	参加人数（のべ）
2025年4月	3回	5人
2025年5月	3回	6人
2025年6月	5回	13人
2025年7月	3回	5人
2025年8月	2回	4人
2025年9月	4回	12人
2025年10月	3回	6人
2025年11月	2回	4人
2025年12月	4回	12人

③ プログラミング教室

開催月	実施回数	参加人数（のべ）
2025年4月	2回	4人
2025年5月	2回	4人
2025年6月	8回	8人
2025年7月	8回	8人
2025年8月	8回	8人
2025年9月	6回	6人
2025年10月	4回	4人
2025年11月	2回	2人
2025年12月	1回	1人

4. 土砂災害防止法基礎調査（住民意識調査）委託事業

委 託 元 ：岩手県沿岸広域振興局

実施期間：令和7年6月～令和8年3月

《実施内容》

郵送による意識調査の業務を補助し、業務等についての提言を行った。

【自主事業】

1. 実施期間：令和7年4月～令和8年3月

(1) NPO支援センター事業

- ① 釜石地域で活動するNPO等を訪問し団体活動の状況を把握及び相談対応を行った。
(随時)
 - 団体とのアクセス 145 回
※被災者支援コーディネート事業と合わせて実施した。
- ② 助成金情報や講座、イベント情報等をホームページ・Facebook・メール等を活用し情報発信を行った。(随時)
 - メール：44 件
 - ホームページ：34 件
- ③ 釜石地域で活動するNPOや行政などの情報共有や活動に必要なスキルアップを目的として釜石地域まちづくり連絡会議の開催（月1回第2水曜日）
 - 12 回開催した。

(2) 子どもプログラミング教室

《目的》

地域の子どもたちがデジタルに触れる機会を広げ、論理的に考える力や自分で考えて形にする力を育むことを目的に実施した。また、学校や家庭以外の学びの場として、安心して参加できる居場所づくりにもつなげることを目指した。

《実施内容》

対象：小学5年生～中学3年生

開催日：水曜日クラス・木曜日クラス 各月2回

参加者：小学5年生 3名/小学6年生4名/中学3年生1名

使用コンテンツ：スクラッチ

内容：

- クラスごとのレベルに合わせてScratchでゲーム制作に取り組む機会を提供し、子どもたちがプログラミングの楽しさや論理的思考を学ぶ場とした。
- プログラミング能力検定の認定会場として、検定を実施した。

(3) NPO基盤強化プロジェクト

《目的》

地域で活動するNPO・市民活動団体が、活動内容や団体概要、事業報告、財務情報、連絡先等の基本情報を分かりやすく発信し、行政、企業、助成団体、寄付者、地域住民等からの信頼を得ながら継続的に活動できるよう、情報発信とデジタル活用の基盤整備を支援することを目的に実施した。

《実施内容》

NPO・地域団体の情報発信力の向上と社会的信用の確保に向けて、Webサイトの整備、SNS活用、クラウドサービスの導入、ハイブリッドイベント開催支援等を行った。

- ① Microsoft 365導入支援 1 団体
- ② ハイブリッドイベント開催支援 2 団体
- ③ Webサイト整備・サーバー移管・SNS活用支援 1 団体

また、今後の継続的な支援実施に向けて、Webサイト構築、SNS活用、動画制作、ハイブリッドイベント支援、クラウドサービス導入支援等を含む支援メニューの整理を行った。